〈3〉 部 活 動

1，基本となる考え方

①設置理由

生徒の実態を見ると、帰宅後テレビを見ている。音楽を聞いている。といった状態が多く、運動の機会が少ないばかりでなく、時間を有意義に活用していない。

そこで、放課後の時間を活用して、運動の場を与えるとともに、同一の運動を続けて行く実践力の育成を目指した。本年度で６年目を迎える。

②活動方法

・期間は、５月～11月とし、週２～３日以内とする。（会議日は活動しない）
・各部に、常時２～３名の指導者がつき、全教官がローテーションで当たる。
・対象生徒は、中高等部の全生徒とする。
・入部希望者には、保護者の同意書を提出させる。障害（てんかん、ダウン症等）によっては、主治医の意見書を添え、指導上の留意点を明確にする。
・生活指導部、保体主事を中心に運営委員会を設け、そのつど問題に対処する。

③設置する部

・バスケットボール部
・ジョギング部
・グラウンドゴルフ部

２，本年度の取り組み姿勢

少数の教師に負担がかからないようにと、全教官がローテーションで指導に当たっていたが、指導の一貫性・継続性の点で問題が生じてきた。そこで、本年度は、ローテーションを基本としながらも同一指導者が一つの部に専属で指導を行なうことにし、先の問題点の解消に努めることにした。

３，指導の実際

①バスケットボール部

ゲームを中心としながら、個人技能と仲間との協調性などの育成をねらいとしている。

また、ボールが手につかない生徒も少なくないが、ボールの動きに合わせて動けるようになってきており、５分間のゲームで息を切らしてしまう生徒がほとんどである。また、ゲームの中で、一部の生徒にボールが集中してしまうことが多いが、攻める・守るという意識を持った動きが見られるようになり、それに伴って、生徒の表情が必死になる場面が増えてきている。

全般的に、どの生徒も積極的に取り組み、バスケットボールを楽しんでいる。活動中に限らず、活動した後の生徒の表情は生き生きとしている。

②ジョギング部

自分のペースで長い距離を走る楽しさを味わわせたり、仲間との競争や一緒に運動する喜びを味わわせることをねらいとしている。

チームを3チーム（赤・黄・緑）に分け、チーム対抗のミニ駅伝（リレー）形式で行なっている。チームによる仲間意識の向上や目当てに向かってがんばる姿などが見られるようになってきている。

また、心拍測定機により走る前と直後の心拍数を測定し自分のペース（目当て）を設定したり、徐々にペース（目当て）を上げたりさせることによって、楽しんで走れるようにした。

今後は、ただ、ジョギングをするのではなく、少しでも自分のペースをつかみ、楽しみながら汗を流す喜びを体得し生涯スポーツへつなげていけることを望みたい。

③グラウンドゴルフ部

個人練習を中心としながら、個別に指導を行なったり、実態に応じて、対抗戦等のゲームを取り入れている。

グラウンドに4か所のポールを立て、時間一杯何回でも回るようにしている。20～30分の活動時間内に、少ない生徒でも1km、多い生徒では4～5km歩いたり走ったりしている。

玉が、ポールに当たったときの「カーン」という音が心地よいせいもあり、ほとんどの生徒が積極的に活動している。自閉的傾向の強い生徒は、なかなか試合形式のゲームができないが、グラウンドゴルフをすること自体は、どの生徒も興味を持ち楽しんでいるといえる。

4，まとめ

部活動が、生徒にとってスポーツを楽しみ、体を動かすよい場になってきているものの、年間の活動回数が少なく単位あたりの時間が短いことや、活動日が飛び飛びになっていることから、指導者を専属にしても、指導の継続性や生徒一人ひとりの技能の向上がなかなか期待できない面がある。

また、他校との対抗戦等の練習した成果を発表する場がほとんどないため、生徒に、目当てや目標を持たせるにくい面がある。

さらには、少しでも帰宅が遅い方が、家庭が助かるといった保護者の甘えにつながる面も出て来ている。

様々な問題点もあるが、生徒も部活動のある日を心待ちにしており、主体的に取り組もうとしていることから、今後も是非続けていきたいと考えている。